

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人ふれんど		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	〒059-1273 北海道苫小牧市明徳町4丁目4番17号 (電話) 0144-67-8102		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000~17,000 円	
敷金	有(円)	Ⓜ		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団玄洋会道央佐藤病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、苫小牧市内の西側の住宅街に位置し、高齢者福祉総合施設の一部に開設している。母体法人は、他に認知症型・標準型対応デイサービスセンター、ショートステイ、居宅介護支援と4事業を展開しており、当事業所を含め、同敷地内に一部5階建ての複合施設を形成しており、地域からは見学者も訪れるなど、注目されている。職員は明るく、利用者の顔に笑顔があり、また施設長も、利用者の「のどかな毎日」「穏やかな毎日」「平和な毎日」の支援に余念がない。更に、当事業所は、同法人系列に医療機関も有しており、利用者、家族の安心、安全にも配慮するなど、今後も多いに期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議に、自己評価、外部評価を公表しており、広く意見を求めている。また、家族等への報告は、事業所機関紙に利用者の写真を多く掲載するなどして充実を図っている。施錠については、利用者の外出、安全対策としての措置ではあるが、今後は鍵をかけない取り組みに期待する。災害対策として本年11月に夜間想定訓練を行っているほか、湿度計を全居室に設置するなどして居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>自己評価及び外部評価を全職員に周知して、更なる質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、事業所の行事、外部評価の結果も公表するとともに、運営に関して意見を得ている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月に1回、事業所機関紙の「のどかだより」を発行して、家族に利用者本人の様子を知らせている。また、運営に関して、遠方の家族からは、電話や手紙で意見を聴いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会とは、運営推進会議への参加を得て意見を聴くなど、連携を図りながら交流をしている。また、近隣の幼稚園の運動会、小学校の学芸会を観賞するなど、利用者が地域と交流を図れるような日常生活の支援をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は、地域密着型サービスの意義を認識しており、お仕着せにならないよう利用者本位に考えながら、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、スタッフルームに掲示しているとともに、申し送り時やミーティング時に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の学芸会、幼稚園の運動会等の行事に、積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行うなど、サービスの質向上に活かすよう努めている。またミーティング時に、職員で話し合うなど連携を図りながら取り組んでおり、評価の意義についても周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、外部評価の結果について意見を聴くなどして、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苫小牧市開催の研修会に、積極的に担当職員を派遣するなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の機関紙「のどかだより」を2ヶ月に1回発行するとともに、家族の面会時に利用者の様子等を報告している。また、たよりの内容も、家族の要望を採り入れ、写真を多く掲載するなどの工夫をしている。なお、報告は、個人情報の取り扱いに配慮しながら行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の訪問時に何でも話してもらえるように心がけている。また、苦情ボックスを設置して、苦情、不満、意見等の収集にも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族の安心と、信頼関係を築くためにも、馴染みの職員によるケアに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、法人独自の研修を実施するとともに、全職員に法人の基本業務マニュアルを配布している。また、認知症サポーター養成講師として活躍している職員もあり、他の職員のトレーニングに活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、連絡協議会に加盟しており、他の事業所等との学習会、情報交換を通して、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同敷地内のデイサービス、ケアハウス、ショートステイ利用者が、当事業所を利用するなど、利用する前から本人や家族は当事業所に入出入りしており、馴染みの関係ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には、夕方暗くなると帰宅願望が出る場合もあるが、職員は一緒に不安、悩みを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々の関わりの中で、言葉や表情から利用者の意向、関心の把握に努め、ケアプランに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のこれまでの生活歴、家族からの情報に基づき、サービス担当者会議を行い、詳細な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎日業務日誌をつけ、利用者の状態変化の把握に努めるとともに、月に1回のサービス担当者会議をとおして、検討見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、同法人の運営する複合施設の中の一つであり、利用者、家族の希望に沿った柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列法人の医療機関を利用している。また、利用者の要望に応じたかかりつけの医療機関も利用しており、家族、職員が送迎し対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する看取りの指針を定めており、家族、本人の意思を最大限尊重するとともに、情報を伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の名前呼び方について、本人の意向を充分採り入れるなど、利用者一人ひとりの誇りを傷つけないような配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調に配慮しながら、希望に沿った支援ができるように職員間で話し合っている。	○	今後は更に、外出等も利用者のペースに沿って行うなどの、柔軟な対応に期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	箸を使えない利用者には、職員が適切な介助を行っている。後片付けは、利用者と職員が一緒に行っており、利用者ができることを見極めながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は天然温泉となっており、昼食後の入浴など、利用者の希望に沿った入浴支援をしている。また、寝たきりの利用者も、併設複合施設内に設置されている機械浴設備で入浴ができるなど、一人ひとりの状況にあわせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事時のテーブル拭きなど、利用者の日々の生活の中で、役割の支援をしている。また、介護度に関係なく全員ができるよう、ジャンケンゲームなど工夫しながら、気晴らしの支援の取り組みに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家庭菜園をつくっており、特に春先は、近くのスーパーに花や野菜の苗を買いに行くなど、利用者の意向をケアプランに活かしながら、外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は、昼夜を問わず外出する利用者配慮し、安全対策上から、本人、家族の同意を得て、玄関の施錠をしているが、鍵をかけない取り組みに向け、職員間で話し合っている。	○	利用者にもたらす心理的な不安、閉塞感に配慮して、安全を確保しながら、鍵をかけない柔軟なケアに取り組むことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年、夜間対応訓練を実施している。また、職員は救急救命講習を受けているとともに、緊急対応マニュアルを作成して、日常的に取り組むよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「生活暮らしのアセスメントシート」で、一人ひとりの水分摂取量等をチェックしており、職員は情報を共有している。また、献立は法人の管理栄養士の指導を受けており、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度計、加湿器を設置しているとともに、台所や風呂も清潔に保っており、利用者が快適に過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ロッカーを備え付けているとともに、家族も宿泊できる十分なスペースになっている。また、利用者は使い慣れた馴染みの家具や日用品、写真を持参しており、利用者の居心地のよさに配慮した居室づくりを行っている。		

※  は、重点項目。